

## 4-1-1 総合診療部

### 4-1-1-1 小児期診療科

#### 1. 概要

医療技術が高度になり専門分化されてくると、障害臓器のみに目が行き患者を全体的に捉えないことによる様々な弊害が生じてくる。高度専門医療を行う当センターにおいては、包括的に患者をみる科が特に必要である。その役割を担うのが総合診療部である。通常の General pediatrician とは異なり、通り一遍の専門科では太刀打ちできないような全領域に渡る実力を備えたいいわゆるスーパー小児科を目指して、教育、診療、研究を行っている。

#### 2. 診療活動

##### 2.1 外来診療

総合診療小児科外来、予防接種、乳幼児健診、発達外来、手術前診察外来、予防接種外来(一般、免疫不全、アレルギー)を担当している。特に多臓器に障害をもち各専門分野の医療が必要な児の主治医として、必要な医療がスムーズに漏れなく行われるようコーディネートしている。

##### 2.2 病棟診療

乳児期病棟、小児期病棟、外科系病棟での入院患者のケアを行っている。

##### 2.2.1 療育ケアチーム

重複障害児で長期入院および頻回入院児を対象にしている。各チームでのゴールを設定し、統一したケアができるよう、総合診療部、神経科、リハビリ科でチームを形成し週1回回診を行っている。将来的には看護部、ケースワーカー、薬剤部、栄養部も加わる予定である。

##### 2.2.2 緩和ケアチーム

様々な疾患で長期生存が困難な児童を対象としている。現在はまだ準備段階で、職員の意識と知識の向上のため、外部から講師を依頼し勉強会を行ったり、該当ケースのカンファレンスを行ったりしている。将来的には医師、看護師、保育士、心理士、ケースワーカーで固定スタッフ、流動スタッフを形成し活動していく予定である。

##### 2.3 各種疾患のガイドライン作成

川崎病、尿路感染症、熱性けいれんなどの common disease について共通認識で最新の治療ができることを目的として、ガイドラインを作成している。

##### 2.4 学会報告、論文報告

日本小児科学会総会、小児科学会東京都地方会、各専門分野の学会で多数の医師が発表している。

#### 3. 研修

##### 3.1 プレゼンテーション

下記の際には研修の一環として、研修医によりプレゼンテーションを行っている。

- ・ morning conference 7:30 ~ 8:00 研修医による新入院患者のプレゼンテーション
- ・ 高山部長による英語による病棟回診 8:00 ~ 9:00

##### 3.2 各セミナー

下記のセミナーを定期的に行い知識の向上に努めている。

- ・ ランチタイムセミナー 火曜日、木曜日 12:30 ~ 13:30
- ・ Radiology conference 月曜日 17:00 ~ 18:00
- ・ 思春期勉強会 木曜日 18:00 ~ 19:00
- ・ evening seminar 水曜日 18:00 ~ 19:00

以下は evening seminar で行ったタイトルである。

担当科	タイトル
7月2日放射線診断部 野坂 Dr	腹部救急画像診断15ヶ月:教訓例から学んだこと
7月9日腫瘍血液科 清谷 Dr	小児白血病
7月16日疼痛管理科 近藤 Dr	小児の鎮静について:特にMRI検査の鎮静について
7月30日外科 田中 Dr	日常診療で遭遇する小児外科疾患
8月6日脳外科 山田、師田 Dr	水頭症、二分脊椎の外科治療、脳神経外科の歩みと治療疾患
8月13日呼吸器科 宮川 Dr	小児の喘鳴
8月20日放射線治療部 正木 Dr	小児ガン放射線治療
8月27日脳神経外科 師田 Dr	小児頭部外傷患者のケア
9月3日循環器科 石澤 Dr	小児のカテーテル治療
9月10日心臓血管外科 関口 Dr	ペースメーカーの話
9月17日整形外科 日下部 Dr	四肢外傷の診断と応急処置
9月24日アレルギー科 野村 Dr	気管支喘息の病態と治療
10月1日形成外科 金子 Dr	成育でよく扱う形成外科疾患
10月8日泌尿器科 青木 Dr	小児泌尿器科でよく遭遇する尿路系疾患
10月15日膠原病感染科 立澤 Dr	抗菌薬マニュアル
10月22日内分泌代謝科 田中 Dr	低身長診断と治療
10月29日皮膚科 中村 Dr	アザのレーザー治療
11月5日腎臓科 飯島 Dr	どうして蛋白尿がでるのか?
11月12日眼科 東 Dr	未熟児網膜症
11月19日消化器科 香坂 Dr	小児の下痢症
11月26日耳鼻咽喉科 川城 Dr	顎顔面の発生と小児耳鼻咽喉科
12月3日神経科 二瓶 Dr	小児神経の診かた
12月10日リハビリテーション科 高橋 Dr	言葉の遅れ
12月17日遺伝診療科	先天異常の染色体診断
12月24日母性内科 村島 Dr	母性内科における成育医療
12月31日(公休日)	
1月14日歯科 金田一 Dr	小児科でよく遭遇する歯科疾患
1月21日発達心理科 宮尾 Dr	発達障害の診方
1月21日育児心理科	子育て中の母親の心理
1月28日思春期心理科	摂食障害
2月4日新生児ICU I	新生児外科疾患の新生児期の管理
2月11日(公休日)	
2月18日褥瘡チーム	褥瘡の治療と褥瘡対策チームの治療
3月3日救急診療科	徴候から病態へ 多呼吸から苦情まで
3月10日麻酔科	総合診療と小児麻酔
3月17日成人期診療科	心エコー図デジタルファイリングシステムにおける Diagnostic accuracy
3月31日手術集中治療科	長期人工呼吸患者の在宅への取り組み

### 3.3 研究会

- 3.3.1 平成 15 年 10 月 16 日 成育医療センターアレルギー臨床懇話会（対象：世田谷区、目黒区、狛江市医師会小児医療従事者）公開症例検討会
- 3.3.2 平成 15 年 7 月 20 日 第 8 回日本ラテックスアレルギー研究会開催（小倉）
- 3.3.3 平成 16 年 2 月 19 日 成育医療センターアレルギー臨床懇話会（対象：世田谷区、目黒区、狛江市医師会小児医療従事者）テーマ：喘息治療、花粉症治療
- 3.3.4 平成 15 年 9 月 13 日 第 2 回成育医療臨床懇話会 地域医療施設との連携を密にする目的の一つとして地域の医師に開放した講演会を開催 1.成育医療センターにおける言語聴覚療法、2.睡眠時無呼吸症候群、3.急性腹症、4. こどものアトピー性皮膚炎
- 3.3.5 平成 16 年 3 月 6 日 第 3 回成育医療臨床懇話会 1. 紹介患者経過報告、2. 放射線診療部の業務と院外サービス、3. 救急診療部救急患者搬送業務、4. 小児の生活習慣病

### 3.4 レジデントセミナー

地域開業医の先生による、当センター研修医、レジデントのための講義。

演題：こどもの診方、お母さんへの伝え方

演者：横井こどもクリニック 横井茂夫院長

### 3.5 臨床研修医指導

国立病院東京医療センターの医師初期臨床研修の成育コースとして 11 ヶ月間の小児科研修を実施した。

## 4. 研究活動

### 4.1 臨床研究

4.1.1 平成 15 年度厚生労働科学研究費補助金(免疫アレルギー疾患予防・治療)研究事業 分担研究者：「食物等によるアナフィラキシー反応の原因物質(アレルギー)の確定、予防・予知法の確立に関する研究」

概要：食品表示法の施行により食物アレルギーをおこしやすいあるいは症状が重症となりやすい 24 品目の表示が義務・推奨されるようになった。しかし、食物には交叉反応性が存在するためこれだけの表示では不十分である。日本人の IgE 抗体がどのような食物間で交叉反応性を示すかその頻度を調べることで食品表示を読む際に注意することができる。

4.1.2 厚生科学研究費補助金(免疫アレルギー疾患予防・治療等研究事業) 分担研究者：患者、患者家族及び一般市民を対象とした的確な情報収集、情報提供方法の確立の研究 学校での健康教育としての思春期喘息教育の必要性と有効性の研究

概要：気管支喘息に限らず、疾患を理解していないために十分な治療が行われていない患者、失却はいるが治療を受けていない患者がいる。これらの患者に対しては医療機関の中だけの啓発活動では限界である。この研究では、学校教育の現場で、健康教育の一環としてアレルギー教育を行い園成果、必要性について検討を行っている。

4.1.3 環境省委託公害健康被害補償予防協会委託事業「大気汚染による健康影響に関する総合的研究」ワーキンググループリーダー：小児喘息の長期経過・予後調査及びその予知法の研究に関する検討グループ

概要：研究の目的は、現在行われている喘息治療によって喘息の予後に違いが出てくるかを検証します。2002 年にガイドラインが発表され向こう約 3 - 4 年間における喘息治療は、まだまだばらつきがあると予想される。こうした違いが喘息予後に与える影響を検証する。

発症 1 年未満の気管支喘息患者（喘息群）と 1 年以内に喘鳴の既往のある患者（喘鳴群）を外来等で選定し、調査協力の同意をとる。その後調査センター（国立成育医療センター内に設置）に登録し、その後はほとんどの作業を調査センターと患者の間で郵便により行う。調査項目は、症状、薬、

環境、QOL等。調査頻度は、最初の2年間は頻繁に実施しその後は1年ごとにできれば40年後ぐらいまで追跡することを予定。予定している患者数は、3000名。

4.1.4 国立病院治療共同研究 気管支喘息ネットワーク研究 分担研究者：環境調整とアレルギーモニタリングによる気管支喘息治療・管理の効果

## 4.2 治験研究

4.2.1 MK-476 長期投与試験 乳幼児気管支（1歳以上6歳未満）-

治験責任医師：赤澤 晃

治験担当医師：河原秀俊、神谷太郎、石井徹仁、須田友子、大矢幸弘、渡辺博子

気管支喘息治療薬であるロイコトリエン受容体拮抗薬モンテルカストの1歳から6歳未満の適応拡大のための臨床治験

4.2.2 MF-DPI 臨床第 相試験 高用量投与試験

治験責任医師：赤澤 晃

治験担当医師：河原秀俊、神谷太郎、石井徹仁、須田友子、大矢幸弘、渡辺博子

16歳以上を対象とした吸入ステロイド薬モメタゾンの第2相臨床治験。当院ではとくに思春期喘息児を対象に実施した。

4.2.3 シングレアチュアプル錠5 多施設共同非盲検比較市販後臨床試験 吸入ステロイドとの併用

治験責任医師：赤澤 晃

治験担当医師：河原秀俊、神谷太郎、石井徹仁、須田友子、大矢幸弘、野村伊知郎

吸入ステロイド薬の上乗せ効果として徐放性テオフィリン製剤とロイコトリエン受容体拮抗薬の比較をおこなった市販後臨床試験

4.2.4 フルタイド小児特別調査（長期使用に関する調査）

治験責任医師：赤澤 晃

治験担当医師：河原秀俊、須田友子、渡辺博子、石井徹仁、赤司賢一、成田雅子、大矢幸弘

4.2.5 6カ月～4歳の日本人小児気管支喘息患者を対象としたブデソニド吸入用懸濁液の1日量0.5～1.0mgの有効性及び安全性を検討する24週間投与の多施設共同無作為化平行群愛重第 相オープン試験

治験責任医師：赤澤 晃

治験担当医師：河原秀俊、須田友子、渡辺博子、石井徹仁、赤司賢一、成田雅子、大矢幸弘

乳幼児を対象とした、現在世界唯一の吸入ステロイド薬吸入液の治験。海外ではすでに使用され乳幼児ぜん息の有効性が確立しているが国内では未発売の製品。

## 5. 社会的活動など

### 5.1 社会的活動

5.1.1 赤澤 晃：医学セミナー講師「小児気管支喘息診療と幼児ステロイド吸入療法の手技」平成15年4月29日

5.1.2 赤澤 晃：川崎市ぜん息予防等に関する講習会講師「ぜん息などアレルギー患について」平成15年5月7日

5.1.3 赤澤 晃：世田谷薬剤師会保健薬局部会 勉強会講師「喘息治療について」平成15年6月11日

5.1.4 赤澤 晃：アレルギー研修会2003 「小児喘息の最新診療の実際：ガイドラインに沿った診断と治療」平成15年6月28日

5.1.5 赤澤 晃：北区健康福祉課「未就学（ぜん息）児保護者セミナー」講師 平成15年8月21日～24日

- 5.1.6 赤澤 晃：平成 15 年度学校栄養職員等研修会講師「食物アレルギーについて」平成 15 年 9 月 10 日
- 5.1.7 赤澤 晃：北区健康福祉課ぜん息予防等に関する講習会講師「小児のアレルギー疾患の治療について」平成 15 年 9 月 3 日
- 5.1.8 赤澤 晃：公害健康被害補償予防協会 保健指導研修講師「ぜん息児の薬の管理・皮膚疾患児のスキンケア」平成 15 年 10 月 28 日
- 5.1.9 赤澤 晃：世田谷区保健所新生児等訪問指導員研修会講師「乳幼児期のアレルギーについて」平成 16 年 2 月 2 日
- 5.1.10 赤澤 晃：北区健康福祉課 小児気管支喘息転地療養事業 平成 15 年 8 月 21 日～24 日
- 5.1.11 河原秀俊：葛飾区健康福祉課 小児気管支喘息転地療養事業 平成 15 年 8 月
- 5.1.12 石井徹仁：葛飾区健康福祉課 小児気管支喘息転地療養事業 平成 15 年 8 月

## 5.2 その他の活動

- 5.2.1 赤澤 晃：日本アレルギー学会認定指導医（認定番号 第 360 号）
- 5.2.2 赤澤 晃：日本ラテックスアレルギー研究会事務局代表
- 5.2.3 赤澤 晃：厚生労働省副作用判定調査会調査員
- 5.2.4 赤澤 晃：世田谷区大気汚染認定審査会委員
- 5.2.5 赤澤 晃：日本小児アレルギー学会 小児気管支喘息治療管理ガイドライン作成委員会委員